

…ボランティアがつくるニュースレター…

トラストネットワーク

作 成…トラスト通信ボランティア
発 行…(一財)世田谷トラストまちづくり

〒155-0031
世田谷区北沢2-8-18 北沢タウンホール7階
Tel・03(6407)3311 Fax・03(6407)3319
<http://www.setagayatm.or.jp/>



No. 74 2016年12月

猪股邸に遊ぶⅣ

～数寄屋と共鳴する尺八と箏のハーモニー～

11月20日(日)、トラストまちづくりとNPO法人木造建築文化総合センターの共催で、成城5丁目の旧猪股邸住宅で標記のイベントが開催されました。

14時から16時というご案内だったので、13時40分頃伺ったところ、すでに多くのお客様が来場されていて、会場である居間でそれぞれ歓談されていました。この催しは、応募多数の場合抽選となっていました。120人の応募があったとか。定員が50人だったので当選確率は1/2以下。来られた方は皆さん、うれしそうな表情でした。

初冬にしては暖かな昼下がり、部屋の窓はすべて開放されていましたが寒さは感じず、邦楽の演奏会ということもあって、お客様の中には着物姿の方もいて、その雰囲気からも期待が高まります。演奏する場所は居間に隣接した食堂。広さは8畳程でしょうか。4面の箏が所狭しと置か

れていましたが、中庭に面した窓が開放されている為か会場に閉塞感はなく、演奏者と客席の近さにサロンコンサートの醍醐味を感じました。

まず、はじめにトラストまちづくりの春日理事長の挨拶。世田谷の「みどり」と「近代建築」というふたつの魅力について、これからは見せるだけでなく、この企画のように活動の場としてもっと活用していきたいというお話がありました。

そして演奏者の紹介に続き演奏がはじまりました。

尺八:ジョン・海山・ネプチューンさん

日本にいられて45年。南房総の鴨川市在住で、尺八は自作。曲も作曲。日本人より日本語が上手…というのは大げさにしても、ジョークをふんだんに交えたトークは演奏をより魅力的にするだけではなく、まわりの人への暖かい心配りが感じられて、演奏会が心なごむひと時となりました。



74号の目次

猪股邸に遊ぶⅣ	1
菊の展示会 2016	3
せたがや散歩道	4
瀬田農業公園分園開園イベント	6
かわらばん	8

箏：渡辺正子さん

笑顔が素敵。というのが、私の第一印象。前回の「猪股邸に遊ぶⅢ」ではヴァイオリンと競演されたとのことでした。

箏は生田流で、全国各地で箏曲の演奏活動をされているようですが、華麗な演奏を間近で見られてとても感動しました。急なアンコールにも、すばやく調弦されて、すばらしい音を聴かせて下さいました。

箏アンサンブル：

望月さん 二井本さん 愛甲さん 犬飼さん

ジョンさん、渡辺さんの後ろで演奏して下さいました。控えめながら、箏をひく姿はりりしく、美しく、日本女性の美を感じさせられました。

曲目

- 1 月の精霊
- 2 霧の虹 White Rainbow
- 3 森の道 Forest Trail
- 4 翔光 Flying Light

以上ジョンさん作曲

- 5 キビタキの森 宮田耕八朗作曲
- アンコール曲 春の海

各曲の合間にはジョンさんのジョークを交えた尺八や曲の説明、渡辺さんの箏の説明などが入り、誰でも演奏を楽しめる工夫がされていました。

お話によると、尺八の手穴は5つ。世界の笛は手穴が6つのものがほとんどで、これは珍しいことだそうです。また、尺八は竹でできていますが、長さは色々。でも節は7つと決まっているそうです。

箏では、生田流、山田流があるが、生田流の特徴は爪が四角であること、生田流は関西が主流で、箏の大きさが関東で主流の山田流より大きく、それは畳の大きさが違うことと関係

しているらしいなどのお話がありました。

演奏の合間には、色々な長さの尺八を使って、「五木の子守歌」や「オーバー・ザ・レインボー」が、民謡の音階と西洋の音階の違いの説明では、モーツァルトの曲も披露されました。

また、会場の客席はもうせんに座る形式でしたが、ジョンさんが、足が痛くなったお客様に配慮して、「立って聴いて」と勧める一幕もありました。(客席からは、「助かったわ!」という声が聞こえていました。)



演奏会の合間で、木造建築文化総合センターの稲葉先生からのお話がありましたが、旧猪股邸は来年世田谷区の文化財として登録される予定だそうです。これからももっと活用していきたいというお言葉がありました。またこの建物の寄贈者である猪股夫妻も今回の演奏会を楽しまれ、最後に挨拶をされました。

最後に、今回は当選者としてありがとうございました。演奏会を聴かせていただきましたが、おかげさまで本当に楽しい時間を過ごしました。(おかげさまという言葉はジョンさんが好きな言葉で、西洋にはない感謝をこめた言葉だそうです。)

これからも沢山の人がこのような機会に恵まれるように、是非、皆様でトラストまちづくりを応援していきましょう。

フラワーランド菊の展示会 2016/ イベント DAY・開催

フラワーランドで菊の展示会が10月27日から11月13日まで、そして、イベントDAY が11月6日に開催されました。11月6日は秋晴れに恵まれ、早くから多くの方々が余剰苗チャリティー頒布や体験コーナー等に参加するため来場されました。チャリティー頒布で一番の人気は季節がら、菊の花やつぼみのついたバラの苗、そしてパンジー苗等でした。

菊の育成講習会

今年の菊の育成講習会は、ポットで育てられた盆栽菊を陶器の鉢に植え替える作業でした。受講者は、友の会の会員の指導のもと、盆栽用に育てられた開花中の小ぶりの菊をポットから抜き出し、余分な土を落とし、小さな鉢に植え替え、苔を張り、水やりをした後、今後の管理等の注意事項の説明を受け、嬉しそうに持ち帰りました。



秋のミニブーケづくり

午前10時30分と午後1時30分からのミニブーケ作りは相変わらずの人気で、午前も午後も予定人員オーバー。ただし、ちょっと気になったのは、昨年までは小学生達が大勢並んだのに、今回は少なかったことです。

一列に並んだ20組の中で幼児連れは、午前は4組。午後は1組でした。順番に一人ずつ、園内で咲いたバラ、ダリア、ケイトウ、千日紅などの花7本、シロタエギク等の葉を適当に選び、束ねてリボンをつけてもらいます。まず、最初に選ぶのがバラの花。そのバラの花の色に合わせて紫・赤などの花を選ぶのですが、配色等のバランスが難しいようでした。それだけに、お年寄りの方も、ブーケを受け取る時は嬉しそうでした。



ガーデンツアー

ガーデンツアーは、園内に植えられている植物について写真を交えて説明してくれたのですが、珍しい植物も多く、参加者も熱心に聞いていました。

バラガーデンの案内

バラガーデンのバラは、無農薬栽培をしているので、うどんこ病等に侵されることがあるとか。それでも、見学の方々に花を見ていただくため、いろいろ苦勞をされているそうです。参加者に、病虫害防除のため植えられているハーブ等の説明も行っていました。

せたがや 散歩道

荒玉水道道路を探る

世田谷区の地図上で喜多見二丁目の砧浄水場を見つけ、荒玉水道道路をたどると桜上水四丁目の区境まで直線で結ばれています。同じ様に小田急小田原線も喜多見駅から豪徳寺駅までほとんど直線で結ばれています。

ユークリッドの定理「二点間の最短距離はそれらを結ぶ直線で表される」により、水道道路や鉄道線路は最短距離を直線で結んでいることは極めて合理的です。しかしそのような建設工事が可能であった背景を思うと、当時の世田谷には未開発地帯が多かったことが想像されます。

荒玉水道 1923年の関東大震災後、東京市に隣接した町村(当時の奥多摩・北豊島両郡)が急速な都市化による水の需要に応えるため組合を作り、多摩川と荒川を水源とする上水道を建設することになりました。しかし実際には多摩川系のみが着工され、世田谷の砧浄水場から中野区江古田の野方給水所を経て板橋区にある大谷口給水所までを管径1.1mの鉄管で結び、1931年に全長約17kmの工事を完成しました。



砧浄水場正門

このようにして埋設された管路の跡地を道路として整備したのが荒玉水

道道路です。「荒」は荒川、「玉」は玉川(多摩川)の玉で、荒玉と名付けられたとのことです。

砧浄水場から大蔵水道橋へ 喜多見地区では水道道路に沿って数々の文化遺産を見ることが出来ます。特に慶元寺は室町時代に現在の喜多見に移転して来た浄土宗の寺院です。



慶元寺本堂

本堂は区内で最古の寺院建築(1716年)とされています。創建者である江戸氏(後の喜多見氏)代々の墓所があります。

水道道路と筏道の交差点の近くに知行院、さらに喜多見五丁目竹山市民緑地が、また道路を隔てて光伝寺があります。同寺の庭には区名木百選のウメの木があり、大きく仕立てられ満開時の見事な景観が楽しみです。

左に次大夫堀公園を見ながら、水道道路は多摩堤通りを横切り、野川に架かる水道橋へと向かいます。



水道橋 右側が道路用 左側が水管用

水道管は道路と並行して専用の橋で野川を越えています。上流(左方)を見ると、2本の橋が見えます。手前が茶屋道橋、後が喜多見大橋で、そこには多摩堤通りが通っています。

橋を渡ると喜多見六丁目、さらに上り勾配を200mほど進むと野田橋に出ます。橋の下は一般の陸路、これを越えるための橋です。施工者が取り付け名板には1982年の工事で、野田橋水管橋となっています。



近くには、小さな石をていねいに積み上げて造った砧小学校の石垣があります。



野田橋付近は、国分寺崖線の勾配に差し掛かっている場所のため、水道道路の風景がはっきり見えます。上の写真は浄水場方面を撮ったものです。水道管は世田谷通りの下を潜り、

すぐ仙川を越える大蔵水道橋にかかります。その辺りから妙法寺の大仏像が見えます。



仙川に架かる大蔵水道橋

世田谷通りから数百メートルの勾配が続き、崖線を越える地点に差しかかると右側に日大商学部の大きなビルが見えて来ます。一帯の景観にインパクトを与えています。

砧五丁目から四丁目にかけて平坦な道がつづきます。先に小田急線の高架が見え、道路が拡がり分離帯のある地点まで来ました。(以下次号)



瀬田農業公園（フラワーランド）

～分園の開園イベント開催される～

早朝までの悪天候が嘘のような晴れとなった、11日3日午前10時から瀬田農業公園（通称 フラワーランド）の分園の開園イベントが開催されました。当日のワークショップとして、①「種まき体験」（小松菜・小麦の種まき）、②「たねダンゴをつくろう」、そして、世田谷の伝統野菜「大蔵大根の紹介」と「農業クイズ」などの行事が行われました。親子連れなど地域の方々約100名が参加されていました。事前の宣伝が良かったのでしょうか。



開園の挨拶

まず、トラストまちづくりの担当者の司会により、世田谷区役所の担当者、JA世田谷目黒経営役員会副会長、地元農家で大蔵大根栽培の第一人者大塚氏、トラストまちづくり理事長等の挨拶。挨拶の際に畑の土の話になり「皆さん土に触ってみてください」と言われたので、親が土を手にとると、幼児達も畑の端に並んで土遊



楽しい土いじり

びに熱中。いつの時代も土遊びは楽しいようです。



種まき体験

挨拶の後は、まず、種まきです。小松菜の種を入れたコップを前もって申し込みをしていた53人（うち家族連れが約20組）に渡されました。種をまく場所は、幅1.5m、長さ50m位に土を盛り上げた畑の一角です。コップを渡された人たちは、種まきの場所に案内されていよいよ種まき開始です。最初に、種をまく溝の作り方、種のまきかた（小松菜の種が小さいので、親指と人差し指で種をつまみ、指を横に滑らすと種が少しずつつまめます。）など本格的な説明になりました。幼児には難しい話でしたが、種まきが始まると、幼児達もお父さん達に教えられ、土とにらめっこしながら一生懸命に種まき。種をまいたところに入ってしまふ幼児も。

小松菜の種まきの後は、小麦の種まきです。種をまく溝を作り、小さな手で、小麦の種を5cm位の間隔で一粒ずつまきました。ちょっと間隔が広いかな、でも、麦踏みをすると分けつ（麦踏みをすることにより、麦の根元から脇芽が出て、麦の茎の本数が増えること）して、茎の本数が増えるから丈夫だよね。



たねダンゴつくり

一方では、当日先着順に受付けた約35組が、「たねダンゴ*をつくろう」に挑戦。こちらも土遊びで、直径3cmほどの土ダンゴを作り（用土は、ケト土3、赤玉土1の割合で混ぜたもの）、中に肥料としてマグアンプを入れ、土だんごを野菜の種（種はガーデンレタスミックス）の入った皿の中で転がします。10粒から20粒程度、種をつけ、そのダンゴの表面に白い粉（ハイフレッシュ-珪酸塩白土）をまぶし、種が落ちないように固めて終わり。1人2個ずつ作りました。



たねダンゴできたかな？

最後は農業クイズ。大蔵大根の種を見せられて、何の種か答えるもの。幼児には難しい問題でしたが、隣に並べられている大蔵大根を見て何とか答え、大蔵大根とホウレンソウの賞品を貰って意気揚々と帰って行きました。

農業公園の分園の開園時間は、午前9時から午後5時まで(10月～3月は午後4時まで)入園料は無料です。

なお、ボランティア養成のため、平成29年度には「野菜づくり講習会」（野菜の育て方などを講義と実習を通して約1年間（20回）学ぶ予定で、受講者の募集は、平成29年2月に予定しているとのことです。）が開催される予定だそうです。

Information

平成29年度開講予定!!!

野菜づくり講習会

野菜の育て方などを講義と実習を通して約1年間(20回)学びます。

募集は平成29年2月を予定しています。
瀬田農業公園分園の概要やイベント情報については、財団ホームページをご覧ください。

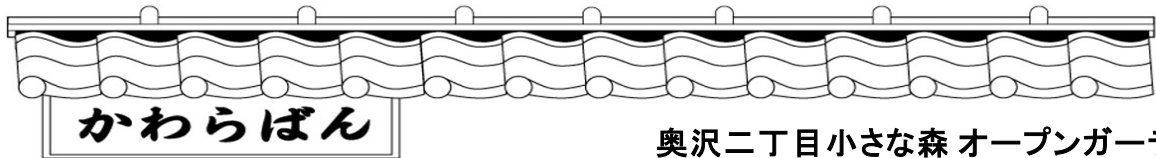
[財団ホームページ](http://www.setagayatm.or.jp/)

<http://www.setagayatm.or.jp/>

講習会案内

瀬田農業公園の分園の所在地は瀬田五丁目11番地で、面積は1,647㎡です。フラワーランドからは若干、離れていますが、トイレや駐輪場等はフラワーランドの設備を共用することになっています。

*「たねダンゴ」は日本家庭園芸協会が推進する新しい種まきの手法で、誰でも簡単にできる方法です。



かわらばん

猪股庭園・秋のお茶席 & 活け花展示

恒例の猪股邸のお茶会が10月29日(土)～30日(日)の2日にわたって催されました(午前11時～午後3時)。両日も曇っていましたが、穏やかな天気でした。

混雑しない時間がいいだろうと思い、29日の昼食後、早めに出かけました。玄関を上がったところで受付をして、解説ボランティアの方の案内で、庭を望む広い居間の緋もうせんが敷かれた席に着きました。庭はまだ緑の樹木がほとんどで、その手前に暑い夏を耐えたスギゴケが美しく生えそろうていました。先客が2組ほどありましたが、静かな雰囲気の中でゆっくり庭を眺めながらお抹茶とお菓子を楽しむことができました。

秋惜しむ開け放ちたる苔の庭 身にしむや人の気配も呼ぶ声も

お抹茶をいただいた後、床の間に飾られた活け花と玄関の棚の活け花を拝見しました。外に出て庭を巡ったり、外から建築家の吉田五十八氏設計の数奇屋づくりの建物を眺めている方もいました。



74号作成に関わったメンバー

奥沢二丁目小さな森 オープンガーデン

12月1日新しい「小さな森」がオープンしました。奥沢二丁目の閑静な住宅街の中、ベニカナメモチの生け垣に囲まれた住居と庭が、その小さな森のガーデンです。

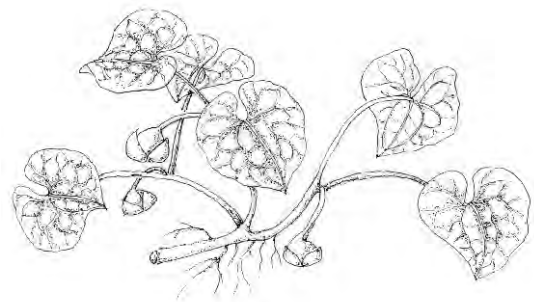
オーナーの説明では住宅は昭和5,6年の建築で庭もほとんど当時のまま、古きよき時代の趣が残る庭だそうです。南側にさまざまな植栽がなされ、またよく手入れがされていました。



いきものさんぽ

彩草会

フタバアオイ(ウマノスズクサ科)
京都の葵祭のシンボル。徳川家の紋章は3枚の葉を巴形にしたものです。



編集後記 区内では喜多見の農業公園について、瀬田農業公園の分園ですが開園となりました。野菜の値上がり、農業改革など何かと話題の多い農業です。公園での野菜や穀物の種まき、除草、水やりなどの作業を経て収穫の喜びを理解しましょう。

大泉定雄 片寄正史 北島明子 須永澄子
高梨麻実 田澤與光 野武一郎 宮下正雄